

活動案：2年生活① 「どきどき わくわく まちたんけん」

1. 課題と目標

想定される課題

国によっては、敬体と常体を使い分けて会話することがないことがあり、敬体と常体の使い分けで戸惑うことが予想される。この単元では、町の人にインタビューする活動があるので、授業に先行して敬体で相手に分かりやすく伝える話し方を指導する必要があると思われる。

また、メモの取り方を知らないため、相手の話すことは何でも書いてしまう傾向が予想される。大事なことを見極め、メモの取り方が分かるように先行で指導する必要がある

【本時の目標】

- ・ 話す相手によって敬体と常体を使い分けることを知る。
- ・ メモの取り方が分かる。

2. 指導のポイント・留意点

- ・ 「～は～ですか。」「～は～していますか。」という文型を使って、丁寧な聞き方ができるように先行で指導する。
- ・ メモと文の違いが分かるように、メモの取り方（短く書く。番号や矢印↓などを使う。大事なことを書く。）を指導する。

- ・ 話し相手によって発話の語尾が変わることに気づかせたいです。ただ、実際に見学に行ったとき興味関心が強いあまり、つい普段の言葉づかいで話してしまうことがあるかもしれません。そのときは、指導したことを理解していないと判断するのではなく、児童の表情や質問内容で判断してほしいです。
- ・ 児童が興味関心をもてるように、インタビューしたくなるような町の写真を用意するといいいでしょう。あっ、ここでこんなこと聞きたいなと思わせるような写真を見せることで、児童の知的好奇心が高まりますよ。

3. 展開(指導上の留意点:△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
1分	1. 学習課題について話す。 めあて 「きいて、メモしてみよう。」	・インタビューの仕方とメモの取り方を学習することを知らせる。 ・教師が町の人になってインタビューを受ける。	
9分	2. インタビューごっこをする。 ・町の人(教師)にインタビューする。 インタビュー内容の例 「なんで、店があつまってるの？」 ↓ 「どうして、店が集まっているのですか。」	・インタビュー内容を書いた紙は、敬体ではなく常体で書いておき、相手によって話し方を変えることをつかませる。 ・左の授業の流れに書いてあるように、丁寧な質問の仕方に気づかせる。 ▼インタビュー内容を考える時間がかかるようだったら短縮するため、インタビュー内容の書かれた紙を用意する。	・町の風景写真を用意しておく。 ・インタビュー内容を書いた紙
10分	3. メモの取り方を理解する。 ・町の人役の教師が話すことを聴いて、メモをとる。 ＜話す内容＞ 「ここは人がたくさん集まるから、ここに店をつくったよ。 たくさんの人が買ってくれるように、他の店よりねだんを安くしているよ。」 ・メモを交換して、大事なことは何か確認する。 ・お手本メモと比べる。 ◎こんなふうにメモするよ！ 「人がたくさんくるから。」 ⓪ ねだん → 安い ・実際に町探検に行ったとき、学習したことを活用してメモをとるように確認する。	・メモができるように、児童の聴きとれる音読速度で、1回だけ話す。 ・重要な内容については、特にゆっくりはっきりと話すことで、大切に気付かせる。 ・大事だと思ったことを、簡単に書くように指示してから、メモをとらせる。 ・メモを児童同士で交換し合って、どんな風にしたのか確認させる。 ・大事な内容が簡潔に書かれているか確認して、よいメモの例文と比べさせる。 ・簡潔にメモをとるためには、記号や矢印も活用すると良いことを知らせる。 例えば 「くふう」は ⓪ と省略する。 「→」を活用して「ねだんをやすくする。」簡単に書く。	・メモ用紙 ・掲示用の良いメモ

活動案：2年生活② 「あしたへ ジャンプ」

1. 課題と目標

想定される課題

資料や記録を、新聞やポスター等にまとめる方法の経験が不足していると思われるので、資料や記録を整理して新聞としてまとめる方法を先行で学習することによって、授業での活動がスムーズに行える。

【本時の目標】

- ・ 見出しの書き方が分かる。
- ・ 読み手が分かる文が書ける。

2. 指導のポイント・留意点

- ・ 事前に自分ががんばったことと来年挑戦したいことを考えさせておく。そこで本時の活動にすぐ入ることができる。本時は書く内容を考えることではないので、ここで時間をとることはしない。メモを短冊に書かせて準備する。
- ・ 事前準備として新聞のひな型を作成して、そこに文を埋め込んでいく形をとる。

語彙 つなぎ言葉：はじめに、去年、今年は、次に、今は

- ・ 指導時間が 20 分と限られているので事前予告をして、すぐに本時の活動にすぐ入ることができます。本時は書く内容を考えることではないので、ここで時間をとることはしない方がいいと思います。前時に予告しておくことで可能だと思います。
- ・ 児童に見せる新聞は、大人が読む新聞ではなくて「朝日小学生新聞」のような子供向けの新聞を用意して見せると理解しやすいと思います。

3. 展開(指導上の留意点:△日本語レベルがより高い児童への指導、▼日本語が弱い子どもへの指導)

時間	展開	指導上の留意点	使用する教材等
1分	1. 学習課題について話す。 めあて 「しんぶんをつくろう」	・ 事前に準備したメモをもとに、新聞をつくることを知らせる。	・ 新聞を用意する。
9分	2. 新聞の小見出しの書き方を知り小見出しをつける。 ・ 小見出しの意味を知る。 ・ 小見出しの書き方を知る。 以下 教師作成の新聞記事(例) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> <p>はじめは、二十とびが5回しかできませんでした。夏休みにれんしゅうしたので、20かいとべるようになりました。 たくさんとべれるようになって、すごくうれしいです。</p> </div>	・ 教師が自作した新聞を見せて、小見出しの意味を知らせる。 ・ 教師が新聞の内容を音読する。児童が小見出しをどのように書いたらよいかを意見を出し、考えさせる。 ・ 小見出しは、自分が書きたいことの中で一番伝えたいことを簡単に書くことに気づかせる。	・ 教師の自作新聞を用意する。 ・ 児童が書き込める新聞のひな型プリントを用意する。
10分	3. 見出しとメモをもとに、新聞記事を書く。 ・ はじめの様子と今を比べて何がどのように変わったのか、読み手に伝わるように書く。	・ 時間や順序を表すつなぎ言葉を、カードにして提示することにより、成長の様子に合わせて使えるようにする。そのために、掲示するときには、順序のはじめを表すことば、次につながるような言葉、結末を表すときに用いられる言葉というように、時系列に沿って並べる。 ・ 何がどうしたのか、何をどのようにしたからできるようになったのかを、明確に書けるように以下のモデル文を提示して支援する。 「はじめ、～は～でした。～したので～できるようになりました。」	つなぎ言葉のカード